

令和4年度第2回安曇野市文書館運営審議会 会議概要

1	会議名	令和4年度第2回安曇野市文書館運営審議会...
2	日 時	令和5年2月2日木曜日 午後1時30分から午後3時
3	会 場	安曇野市文書館2階講義室
4	出席者	細川委員、曾根原委員、小宮山委員、瀬畑委員
5	市側出席者	橋渡教育長、山下文化課長、逸見博物館担当係長、平沢文書館長、松澤博物館担当主任、高橋博物館担当主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年4月6日

会 議 事 項 等

○会議の概要

1 開会

2 教育長あいさつ

3 会議成立要件等

第1回安曇野市文書館運営審議会において、会長を曾根原委員、会長代理を細川委員に指名する。

4 協議

(1) 令和4年度事業中間報告について

事務局 ・資料1について説明。

委員 ・区長会での呼びかけではどんな反応があったのか。

・また、一つの提案として、区長もお互い忙しいので、どちらかという公民館担当に呼び掛けてはいかかが。

事務局 ・区への呼びかけは、今年で2年目となる。

今年、相談のあった2区のうち1区はすでに資料を受け入れている。公民館への対応については、今後検討していきたい。

委員 ・この問題は、一般の民家、区民（住民）への啓発活動も必要。その場合は、会議でお願いしても当事者までは伝わらないので、強化月間という形で、チラシを全戸配布するなど、集中的に市民の意識を高めるようなアクションを起こしてみてもどうか。メリハリのきいた取り組みを。

委員 ・チラシだけだともらった方もわからないので、地域で出前講座を行うなど対話できる機会を作るとより喚起できるのではないかと。

・また、子ども向けパンフレットに関連して、生徒の保護者（PTA）に向けて「こんな資料があるよ」と発信すれば、○周年事業とかがあるので、何らかのアクションにつながるのではないかと。

委員 ・教育普及活動について、展示など待っているだけでは、文書館に人は来てもらえない。今地域づくり課では、教育委員会も含めて出前講座を行っている。各地域、区単位の歴史を語るなど地元学が全国で人気を集めている。出前講座のメニューにこれを加えるのはどうか。多面的なPRが期待できる。

・また、資料の収集について、広域組合の資料も行政の歴史的な資料である。この関係の資料も収集の範囲としていただきたい。特に、土地改良区や山林組合、第三区関係。観光協会や商工会についても、収集の範囲に入れていただきたい。

委員 ・地域全体にだけでなく、ピンポイントに呼びかけても良いと思う。

マンパワーの問題もあると思うので、今年は穂高などと決めて、穂高の区長全員に電話するなど、個別に対応してはどうか。

・検索システムのWeb公開についての具体的なイメージは？

検索システムをWeb上に公開できなかった場合、検索できるPDFファイルを公開するだけでも違う。今の世の中だとWeb上に上がっていないものは無いことになってしまう。検索システムをWebに公開する事は、お金の問題がからんでくる。とりあえず、所蔵資料の一覧をPDFであげてはどうか。

(2) 令和5年度事業方針について

事務局 ・資料2について説明。

- 委員 ・電子公文書への対応とは具体的にどういったものか。
- 事務局 ・まだはつきり見えてきているわけではないが、総務課で電子決裁を導入していきたいと話している。電子公文書について、どういった方法で移管・保存していくか検討していく必要がある。
- 委員 ・長野県は、電子公文書の方向へ話が進んでいる。県の動向も注視しながら進めていく必要がある。
- 委員 ・国では、電子の方へかじを切っている。現用の保存期間も短縮されてきている。保存期間の考え方も変わってくる。単に紙が電子に変わるだけではなく、サイクルも変わってくると思うので、そのことを考えておいた方が良い。

(3) 安曇野市文書館防災計画について

- 事務局 ・資料3について説明。
- 委員 ・浸水に対しては、想定される高さより上に資料を保管するのが一番簡単だが、収蔵庫の問題もあり難しいことでもある。
 収蔵資料の優先順位をつけて、重要なものほど上に上げておくのも一つの手段。あと、サーバーなどの電子系も上に上げておくのも一つの予防策。
- 委員 ・また、東日本大震災のとき、地域で持っていた資料がかなり流された。宮城県の資料ネットの話だと、今までの調査の順番だと撮影が最後だったが、順番を逆にして先に撮影を行ってから目録を作っていた。なので、原本は流されてしまったが、写真データは残ったと聞いている。あと、被災すると古物商がすぐに現地に来て、一括で片付けると言っ、古文書が流出することが多い。宮城県では、人命が第一だが片付ける際は一報くださいと周知した。地域資料を把握していれば、そういった対策を取れるのではないか。
- 委員 ・文書館の立地からして、水害の心配はまず無いかと思われる。地震や火災なども考えられるため、より現実的なシミュレーションの中で考えていただきたい。
- 委員 ・他の地域で被害が無ければ、ボランティアが多く来ることが想定されるが、それをどうさばくかが大きな課題である。そのボランティアが公務員なのか、一般市民なのか区分けをするのが大変な作業となる。
- 委員 ・安曇野市の場合、社協がボランティアの窓口となるが、文書館は一般の救出とは異なってくる。公務員であるのか、専門家がちゃんとしてまわるのかといったところがすごく大きな問題となる。専門的な人がリーダーとなって班を作って動くというシミュレーションが大事になってくる。文書館以外の場所での活動も視野に入れ、それに備えたアクションも考えておく。
- 委員 ・国立公文書館にも救援チームがある。また、全史料協に話をしていただければ、場合による支援ができるかもしれない。公文書を扱う場合には、守秘義務のある公務員が対応できるし、短期間だけ一般の人を雇うという方法もある。資料の優先順位の付け方には様々な方法がある。古文書のように原本と複製という分け方もあるし、東日本大震災の時は公文書であればライフラインに関わるか、そうでないかといったところも大きい。ものによって、優先順位の付け方が変わる。ここでは現用ではなく、文化財に近いものになるので、そうすると現物、代えがきかないものが優先となってくる。寄託資料については、所有権が館にないのでそれが優先されるのではないか。
- 事務局 ・地域資料については、寄託していただいたものは3年後、電話で確認している。今のところ、確認できなかった史料はない。
- 委員 ・事前に把握していることが大事。後から、特に被災してから把握するのは困難である。資料について話す時に、こういうことがあったら相談くださいと先方にも事前にチラシなど配布してはどうか。また、講演など。
- 委員 ・数年前の台風19号で長野市が被害に遭った。長野の場合は、いろんなネットワークがあるのでそういったことも地元の人にわかっていただく啓発活動も必要ではないか。
 安曇野市だけでやろうとするのではなく、助けを求めることも大切なので、日頃から連絡を取り合うなど、事前準備と平時の取り組みが大切。
- 委員 ・電子データは水に被ると飛んでしまい、復元ができなくなってしまうこともある。せめて、市役所の本体の方に1年に1回はバックアップをとっておいておく。この場所じゃないところに、目録のデータのバックアップをとっておくことを考えた方がいい。